



山行報告

★第8回自然と親しむ子ども山登り教室（烏帽子岳）（7月12日）

参加者 子ども2名、スタッフ5名

別働隊 健常者1名、障害者2名)

☆7月12日

高速バスを小諸高原で降り、タクシーとKさんの車に分乗して湯の丸高原に向かう。台風が通り過ぎ、今日はとても良い天気だ。湯の丸高原に着き、今日泊まる花紋の前で昼食を摂り出発準備をする。

花紋をあとに、歩き始めると、右側のスキー場に青紫色の花がたくさん咲いている。それはアヤメだった。すぐに見たい気もしたが、帰りに見ることにして先を急ぐ。



アヤメ群落がすばらしい白窪湿原をいく

湯の丸高原には冬に来ることが多かったが、今回はひさしぶりの夏。レンゲツツジの咲く5月とヤナギランの咲く8月に来たことはあるが、7月ははじめてだ。雪のないキャンプ場を過ぎると白窪湿原に着く。ここも冬は一面の雪

原だが、今回は緑に覆われている。いや、よく見ると、一面にアヤメが咲いている。私がハクサンフウロなどの写真を撮っていると、みんなは先に歩いている。しかし、みんなを呼び止める。せっかくだから湿原のアヤメを見ていこうと。一面緑の中に青紫色のアヤメが無数に咲いている。こんなにたくさんのアヤメを見たのははじめてだ。木道を歩いて湿原を一周する。

再び登山道に戻って、烏帽子岳方面に向かう。湯ノ丸山の山腹をトラバース気味に歩いて行くと、目の前が開け、正面に烏帽子岳が見えてくる。さらに少し歩くと、湯ノ丸山と烏帽子岳のコルに着く。ここで、一休み。Y君は、木に登りたいというので、少し手伝って登らせてあげる。木の枝の上で、ピース。猿みたいだね。



アヤメと湯ノ丸山

烏帽子岳に向かって登り始めると、すぐに四阿山と根子岳が見えてくる。裾野を引いてとても端正な姿をしている。烏帽子岳への登りは、展望と高山植物の道だ。グンナイフウロ、ウマノアシガタ、ハクサンチドリ、シャジクソウ、ベニバナイチヤクソウなど、次々に現れる。ツマトリソウやゴゼンタチバナ、テガタチドリも

咲いている。



一登りで山頂に続く稜線に出る。反対側の展望が開けるが、今日はあまり遠くまでは見えない。稜線にも多くのアヤメが咲いている。そして、岩陰にコマクサも咲いていた。今シーズンはじめて見るコマクサだ。一登りすると、さらに先に山頂がある。Kちゃんは、「エー」と嘆いている。それでも、どんどん登って行った。

ようやく山頂に着き、昼食タイムとする。遠くに残雪を抱いた北アルプスがうっすらとかすかに見える。尖った山は常念岳かと思ったが、他は山の形もよく分からない。近くに根子岳、四阿山、浅間隠山方面、湯ノ丸山、その右手に籠ノ登山、その奥に頭だけ見える浅間山、360度の展望だ。山頂には、ヒオドシチョウやキアゲハが舞っている。



下山は、登ってきた道をコルまで引き返す。コルから予定では湯ノ丸山に登って地蔵峠に下るのだが、来た道をそのまま引き返して地蔵峠に戻ることもできる。子どもたちに聞くと、特にKちゃんが帰りたいたいという。おばあちゃん

と二人の子どもたちは湯ノ丸山に登らずに帰ることにする。

残った大人は、湯ノ丸山への登りをがんばる。背中側からさんさんと太陽光に照らされて、暑さにめげずに登っていく。背後には今登ってきた鳥帽子岳もよく見えている。山頂に着き、遅れている人たちを見に行く、登ってくるのが見えた。「おーい、山頂だよ」と声をかけるが反応がない。聞こえていないのか、聞こえていても返事をする気力がないのかなと思っていたが、聞こえていなかったようだ。自分の足音で人の声もかき消されるので、よほど大きな声を出さないと歩いている時には聞こえないようだ。



湯ノ丸山からつつじ平に下り、稜線通しにスキー場に行く。スキー場を下って行くと、そこから中に牛の糞が落ちている。慎重にくだらないと踏んでしまいそうだ。麓近くの素晴らしいアヤメの群落を楽しみながら、地蔵峠の花紋に行き、風呂に入ってくつろぐ。はじめて食べるチーズフォンデュもおいしかった。

☆7月13日

早朝、カッコウの声が宿からも聞こえた。ドアが開いた時間に外に出て、カッコウやアオジの声をビデオに収める。すがすがしい早朝の鳥たちの合唱は素晴らしい。ただ、今日は曇りのち雨の予報だ。雨が少し遅れてくれれば良いのだが。

朝食を早めに出していただき、7時30分に

花紋を出す。過去に何度も泊めていただいた湯の丸ロッジはすでに取り壊されて跡形もない。少しコースを間違ったので、スキー場を登って登山道に合流する。



コマクサ岳に咲くコマクサ

樹林帯を登っていくと、ようやくコマクサ岳に到着する。カラマツの梢でピンズイが何度もさえすっていた。コマクサ岳のピークを過ぎると、鉄格子に囲まれて踏み込めなくなっているコマクサの群落が現れる。10年以上前に来た時は、ぼつぼつとしかなかったが、保護のおかげでかなり増えたようだ。三方ヶ峰への分岐を過ぎ、池ノ平湿原に下って行く。この頃から雨がぼつぼつ降り始めた。この付近は、まだレンゲツツジが少し残っている。

★登山知識及び技術向上コース（北穂～前穂縦走）（7月19日～21日）

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

☆7月19日

当初、西穂から奥穂縦走の予定だったが、このコースは雨だからコースを変えろという選択が難しかったため、今回のコースに変更した。このコースのポイントは、北穂から涸沢岳の間だが、もし雨が強い場合は、涸沢から直接穂高岳山荘に登るという選択ができるため、このコースに変更した。

上高地に到着すると、曇り空だった。50回以上、数え切れないほど上高地を通過している私だが、Tさんは今回が初めてという。山を愛

池ノ平に降り、鏡池の前で雨具を着る。木道を歩いて駐車場に向かう。湿原にはすでにワシモコウが咲いている。初夏と秋が混在しているところが高原らしいところだ。

降り出した雨は本降りになり始めた。駐車場近くの避難所で休憩する。みなさんと相談し、雨の中を箆ノ登山に登り縦走してもおもしろくないので、このまま林道を歩いて高峰温泉まで行くことにする。高峰温泉に浸かり、疲れを癒やして、ジャンボタクシーで小諸駅に向かう。

子どもたちの参加は、1日目の烏帽子岳だけだったが、多くの高山植物に出会えた2日間でした。

記：網干

コースタイム

7/12 地蔵峠(12:00)…湯ノ丸山と烏帽子岳の科尔(13:05-13:15)…烏帽子岳(14:10-14:25)…科尔(15:10-15:15)…湯ノ丸山(15:50-16:10)…つつじ平(16:45)…地蔵峠(17:20)
7/13 地蔵峠(7:30)…池ノ平(9:20-9:30)…駐車場(9:55-10:30)…高峰温泉(11:20)

するものの多くが憧れる穂高連峰との対面もはじめて。初々しい気持ちで歩き始めたことだろう。

時折日も差すが、雨も降る夏山らしい天気の中で、横尾に到着する。センジュガンピなどが咲いていた。横尾大橋を渡って涸沢に向かう。よく見えていた屏風岩も雲がかかるようになった。雨も降り始めた。

それでも前穂高岳が見える時があり、涸沢のモレーンも見えてきた。氷河地形なども山に登る人なら誰でも知っていると思っていたが、登山経験の少ないTさんにとっては新鮮な知識だったようだ。より高くより困難な山への挑戦だけ出なく、野鳥のことや植物のことも含め、

いろいろなことを学ぼうとするその姿勢に深く頭が下がる思いだ。

私のコンタクトが外れるトラブルもあったが、雪渓を登って涸沢ヒュッテに到着する。涸沢ヒュッテへの最後の階段を上りきった頃、Nさんが足をつってしまった。しかし、みんなの介助によって部屋まで行く。濡れた雨具などをストーブの回りで乾かす。小屋の方に聞くと、明日も今日のような天気だという。できるだけ午前中に穂高岳山荘に着けるようにしたいと思う。

☆7月20日

朝、目が覚めたら奥穂に日が差していた。しかし、すぐに雲に覆われる。朝食を食べて早々に出発する。

涸沢の雪渓を登り、北穂沢に入っていく。まだ下部は夏道が出ていない。雪渓に切られた階段を上る。今回、アイゼンも持ってきたが、アイゼンは付けず、ピッケルだけで登っていく。せっかくピッケルを持ってきたので、小さな枝沢でグリセードを楽しむ。TさんとYさんも楽しんだ。



北穂南稜への鎖場を登る

昨年も北穂高岳に登ったが、今年は昨年とかなり違う。昨年たくさん咲いていたコバイケイソウは、今年は全く咲いていない。残雪は、昨年より1週間早いが、今年の方が多。南稜に登る鎖場の手前にまだ雪渓があり、階段が切られていた。

鎖場もほとんど鎖を使わずに通過し、南稜に

上がる。昨年見つけたライチョウ岩を他の登山者にも教えてあげた。ここを過ぎるとライチョウの親子が現れた。少し離れていたが、多くの登山者が写真を撮った。そして、みんな上に登って行ってしまうと、ライチョウは私の方に近づいてきて、わずか2mくらいの距離のところ、母ライチョウは4羽の雛を自分の腹の羽毛の中に入れてあげている。雛たちにとってはこの季節でもまだ寒いだろう。かわいい雛たちと親の優しさを存分に感じて、先行したみんなのもとに登っていく。



母親のおなかの羽毛に入って暖まる雛たち

テント場を過ぎ、縦走路との合流点に着く。ここにザックを置いて、北穂高岳を往復する。残念ながら槍ヶ岳は姿を現してくれなかった。それでも北穂小屋に着くと、東稜のゴジラの背やキレットが見えた。Iさんが期待していたカレーライスはまだ昼の時間でないので、注文できなかった。それでもおいしい珈琲をいただき、しばしのんびりする。



北穂高小屋にて

山頂に戻ると、滝谷がばっちり見えている。なつかしいドーム北壁のルートもよく見えて

いる。松涛岩や北穂南峰もよく見え、その左奥に奥穂も姿を現している。もしかして槍もと思ったが、姿を見ることはできなかった。



北穂高岳山頂から滝谷を望む

いよいよ涸沢岳への縦走路に向かう。次々に現れる岩場、と言っても全てが岩の山なので当然なのだが、両側が切れ落ちた狭い尾根やトラバースを繰り返し歩いていると、やっぱり岩山は自分の山だなという気がする。



北穂から涸沢岳への岩稜に行く

順調に小さなピークを越え、最低コルに到着する。霧がかなり晴れてきて涸沢岳と西尾根も見えている。目の前にはこれから登る岩稜も見えている。最低コルはそのまま通過し、岩稜を登り始めた時、涸沢岳の方から岩が崩れ落ちる大音響が響き渡り、「ラクー」の音が聞こえる。すぐに音のする方を見ると、なんと、オレンジ色の服を着た人が大の字になって落ちていくのが見えた。その後、岩陰に隠れたまま見えなくなったが、しばらく落石の音が続いていた。100m近く落ちただろうか？

あれでは絶対に助からないなと思っていると、Yさんがすぐに携帯電話を出して、警察に

電話をしている。素早い行動には感心した。私は、誰か同じパーティーの人がいると思い、大声で、「警察に連絡しろー」と声をかけると、「連絡しています」と返ってきた。

300mくらい先だと思うが、これから向かう先での事故だけに、我々のメンバーも精神的に萎縮し、冷静な判断ができなくなると大変なので、ロープを出して、全員でつなぎ合って登ることにした。しかし、つないただけでは一人が落ちると全員が落ちてしまう危険があるので、岩角にロープをかけたたり、鎖場ではカラビナを鎖にかけて自己確保をしながら歩くように伝えて登っていく。



ロープでつなぎ合って雨の降る岩場を登る

事故現場に近づくと穂高岳山荘に常駐するレスキュー隊の方がすでに現場に来ていた。「この上の鎖場で落ちたので気をつけてください」といわれる。現場と思われる鎖場をトラバースし、急な岩場を登るようになる。ここを登ると涸沢岳山頂の一角に着く。山頂にもレスキュー隊の人がいて、トランシーバーで頭蓋骨陥没で心肺停止、天気が悪くヘリが飛ばないので、遺体収容袋に入れて固定すると言っている。遭難は楽しい登山を一瞬のうちに悲劇にしてしまう。命さえあれば、救助のしがいもあるのだが・・・。

涸沢岳の山頂からは、穂高岳山荘がよく見え、ジャンダルムも見えていた。下り始めると、青空も見られるようになった。小屋では、いつものように楽しい時間を過ごし、他のパーティーの方と話をしていたら、立教大学の卒業生で、

N教授を知っている人と出会った。このことで話が盛り上がり、こちらの紹介もさせてもらった。また、白河山岳会の方ともお会いし、福島県山岳連盟の〇会長のことをよくご存じだった。

新しい出会いを楽しみ、早々に眠りについた。



涸沢岳山頂にて

☆7月21日

夜半に外に出てみると、満天の星空だった。天の川に沿って白鳥（座）が飛んでいる。

朝になっても素晴らしい天気だった。小屋の前には日の出を見る人が大勢並んでいる。日の出は常念岳山頂のすぐ上から始まった。予報の悪かった今回の連休で初めてのご来光だろう。



穂高岳山荘から急な岩場を登る

小屋で早々に朝食を済ませ、奥穂への登りにかかる。まだ体の動きがぎこちない中で、急なはしごを登っていく。ここも落ちたら助からない可能性が高い。無事に通過し、緩やかな奥穂への岩の道を登る。槍ヶ岳が涸沢岳と北穂の間に見えてきた。槍ヶ岳の左には立山も見え、右手には白馬岳方面も見えてきた。すぐ右手には笠ヶ岳や抜戸岳が、その右奥には黒部五郎岳が

見え、鷲羽岳方面も見えている。素晴らしい展望だ。



奥穂高岳山頂直下から槍ヶ岳を望む

奥穂の山頂近くになると、今まで見えていなかったジャンダルムがよく見えるようになる。



ジャンダルム(右の岩峰)とロバの耳(左)

ロバの耳をトラバース中の人や馬ノ背を下っている人たちも見える。乗鞍岳や御岳、焼岳も見える。山頂に着くと、これから向かう前穂高岳が間近に見え、360度の大展望だ。



快晴の奥穂高岳山頂にて

朝の出発が30分ほど遅れているので、奥穂の山頂で長居はせず、写真を撮ったあとは吊り尾根に向かう。吊り尾根にも何力所か危険箇所や鎖場がある。途中の岩場で恐怖におびえてな

かなか歩けない女性とサポートしている男性のパーティーがいたが、「ここから先も厳しいところがあるので引き返した方が良いのではないですか」と言おうと思ったが、いらぬお節介かもしれないと思い、何も言わずに通り過ぎた。言うべきだったかなと後ろ髪を引かれる気持ちもあったが、山は自己責任でもあるので、これも仕方がないかなと思う。

我々のパーティーは、Yさんが先頭を歩き、順調に進み、最低コルからトラバースして紀美子平に着いた。ここにザックを置き、前穂を往復する。一カ所悪いところがあるが、順調に登り、山頂に到着。雲が出始めていたが、何とか奥穂も見えた。北尾根の方にも行き、3峰や2峰のピークを見ることができた。



前穂高岳山頂にて

山頂をあとに下山にかかる。片側が切れた岩場も全員、無事に通過。紀美子平で休憩し、重太郎新道を使っての下山にかかる。いきなりの鎖場となるが、見た目ほど傾斜は強くなく、少し鎖につかまる程度で全員そこを通過する。



前穂高岳山頂から見た奥穂高岳と涸沢岳

とにかく急な重太郎新道は樹林帯に入って

も鎖場やはしごが続く。疲れが膝に来たYさんが少し転ぶようになってきた。ゆっくり慎重に下るようにする。



重太郎新道上部の岩場を下る

岳沢小屋に着き、帰りのバスを予約していたYさんはここから早く下ることにする。標高が下がり直射日光が当たるので、さすがに暑くなってくる。岳沢をあとに、上高地を目指す。傾斜は緩いがここも長い道のりだ。疲れた体を引きずるようにみんな一所懸命に歩いている。

上高地に下り、いつもながらの水草が流れになびく沢のせせらぎを聞いていると、心が安らぐようだ。全員無事に帰って来られて本当に良かった。リーダーとしての重圧に押しつぶされそうになりながらも、みなさんの協力のおかげで、一人もケガや事故なく帰り着けたことに感謝しています。

記：網干



クモマグサ

コースタイム

7/19 上高地(7:45)…横尾(10:50-11:15)
 …本谷橋(12:20-12:45)…涸沢(14:50)
 7/20 涸沢(5:50)…南稜(7:45-8:00)…北穂
 高岳(9:40-10:05)…最低コル(11:35)

…澗沢岳(13:20-13:40)…穂高岳山荘
(14:05)

7/21 穂高岳山荘(5:30)…奥穂高岳(6:20)…

最低コル(7:40)…前穂高岳(8:50-
9:00)…岳沢(11:50-12:15)…河童橋

(14:30)

★第8回自然と親しむ子ども山登り教室(鹿島槍ヶ岳)(8月2日～4日)

参加者 子ども1名、スタッフ4名

別働隊 健常者3名

さすがに疲れが出たようだが、Sちゃんは元気
いっぱいだった。

種池山荘に着くと、今まで見えていた針ノ木
岳の右奥に多くの雪を抱いた山が見えてくる。
すぐに立山連峰であることが分かる。こちらの
雪の量とは雲泥の差だ。

☆8月2日

信濃大町からジャンボタクシーで扇沢の爺
ヶ岳登山口に向かう。麓から見た北アルプスは
どんよりとした雲に覆われていて稜線がほと
んど見えなかったが、近づくとある程度稜線は
見えていた。

種池山荘に入って、受付を済ませ、部屋に行
く。部屋は我々の他にご夫婦が一緒だった。明
日は、きっと良い天気になると信じて、眠りに
ついた。TさんとKさんは、それぞれテント泊
だ。

登山口から柏原新道を登る。最初はなかなか
の急登だ。今回、唯一の子ども参加者のSちゃ
んもがんばって登っている。ケルンに着くと、
今日の目的地、種池山荘が稜線に見えるよう
になる。足下はちょっとした岩場なので、注意し
て通過する。

夜半、トイレのついでに外に出てみると、満
天の星空だった。



ケルン手前の岩場を歩く

次第に水平道となり、石畳へと進んでいく。
登っていくと次第に種池山荘は見えなくなっ
てくる。このコース一番の危険地帯である、ガ
レ場を無事に通過し、雪渓も無事に通過した。
最後の急坂にかかる頃、雨が降り出してきた。
ここまで来れば危険なところはないので、雨具
を付けずにSちゃんとどんどん登っていく。



2日目の朝、富士山、八ヶ岳、南アルプス方面

☆8月3日

上空に雲は多いが、ますますの天気夜が明
ける。種池山荘からは日の出が見られなかつ
たが、あかね雲の下に富士山や八ヶ岳などを見
ることができた。

昨日の到着が遅かったので、朝食は第2弾の
6時からとなった。今日は時間的には余裕なの
で、6時朝食でも問題ないが、午後には雲に覆
われて山頂からの展望がなくなるのではない
かと心配する。KTさんは、前日、遅れたので、
今日もみんなに迷惑をかけることを心配して、
今日も種池山荘に連泊するという。冷池山荘ま

でも一緒に行きませんかと言うが、やめておくということで、KTさんを残して出発する。



朝日に染まる蓮華岳と針ノ木岳

爺ヶ岳に向けて少し登ると今まで見えなかった剣岳がよく見えるようになる。さらに登ると、槍穂高連峰も見えてくる。今日は雲が多いが視界はすばらしい。



種池山荘の上空に広がる鱗状の雲

そろそろ休憩したいという意見が出てきたので、爺ヶ岳の南峰に登って休憩することにする。山頂からの展望はすばらしい。これから登



種池山荘と剣・立山連峰

る鹿島槍がどーんと控え、剣岳、立山連峰、針ノ木岳、蓮華岳、薬師岳、槍穂高連峰、そして、遠く南アルプス、富士山、八ヶ岳、頸城山群と

360度の展望だ。東側を見ると、太陽の光を逆光で受けた山々や雲が神秘的な美しさを見せている。一眼レフカメラのバッテリーがなくなってしまう、きれいに写真が撮れずに残念だ。

南峰と中央峰のコルは、コマクサの群落がある。中央峰には、Tさんだけが登ってみた。他のメンバーは先を急ぎ、トラバースしていく。北峰を過ぎると数年前にも咲いていたタカネバラが、今回も迎えてくれた。小さな米粒くらいにしか見えない花を付けるヒメコゴメグサ（姫小米草）もたくさん咲いている。



槍穂高連峰

赤岩尾根への分岐を過ぎ、コルまで下って少し登ると冷池山荘だ。宿泊の手続きをして不要な装備を預かってもらって山頂を目指す。

Tさんは今日もテント泊。少し離れたテント場で1人だけで泊まることになる。昨晚寝不足だったKさんは、今日は山荘に素泊まりすると言う。



剣・立山連峰を背に爺ヶ岳を目指す

テント場を過ぎるとお花畑になる。チングルマやミヤマキンポウゲ、シナノキンバイなどがたくさん咲いている。残雪も少しあった。

次第に傾斜がきつくなり、布引岳への登りにかかる。振り返ると東側を山旗雲に覆われた爺ヶ岳が見える。布引岳に着くとこれから登る鹿島槍ヶ岳の南峰がまだ雲に包まれずに見えた。また、北西側に目を向けると、富山湾とその向こうに能登半島がくっきり見えている。この季節にこんなにはっきり見えるのは、少し異常な天気だ。



爺ヶ岳南峰にて

すぐそこに見える山頂もなかなか着かない。私は腹の調子が悪く、ハイマツの中に潜って用を足す。Sちゃんは、高山病の症状が出てきて、頭が痛いという。ペースもがくと落ちてきた。それでも、一所懸命にがんばっている。

調子の良いKMさんが先頭で山頂に立ち、続いて頭が痛くてもがんばったSちゃんも、他のみんなも山頂に立った。昨日から抜きつ抜かれつして同じペースで登ってきた男性4人組は、1人調子が悪くて引き返したようだが、残りの3人は山頂に登ってきた。



爺ヶ岳方面から見た鹿島槍ヶ岳

残念ながら山頂は霧に巻かれて全く展望がない。少し休んで元気になったSちゃんは、冷

池山荘のチョコレートケーキが15時までしか販売していないので、早く下ろうという。花より団子ですね。

Sちゃんの思いもあるが、展望のない山頂に長くいる必要もないので、早々に下山にかかる。

Sちゃんも下りは順調に下ってくる。少し下ると展望も出てくる。今朝まで泊まった種池山荘も時折見えるようになる。冷池山荘に14時10分到着。山荘の喫茶室で、KMさんが買ってくださったチョコレートケーキと珈琲をいただく。Sちゃんは、頭が痛いようで、あまりチョコレートケーキを食べずに部屋で横になって休んでいた。



鹿島槍ヶ岳山頂にて

夕食後は、自炊室で、他のパーティーの人たちとTさんが持ってきてくれた歌集を参考に、歌合戦が始まった。



コマクサの群落

Sちゃんと夜2時頃星を見に行こうと話していたが、少し前に外に出てみて雲に覆われ全く星が出ていないことを確認したので、2時に外へ出るのを止めた。



富山湾の向こうに能登半島まで見えた

☆8月4日

朝起きると、空はどんよりとした雲に覆われている。こういう時には朝焼けが見られるかもしれないと外に出たが、雨がぽつぽつ降ってきたので、小屋に戻った。



チングルマ

5時に朝食を食べ、5時35分出発。歩き始めは雨が降っていなかったが、赤岩尾根の分岐付近で降り出したため、全員雨具を着る。さすがに今日は展望がない。高山病の影響が出ているSちゃんには、爺ヶ岳の登りはかなりきつかったはずだ。それでもがんばって登っている。すると、西側に虹が現れた。少しだけ日が差した時にはブロッケンも見られた。自然がSちゃんを応援してくれていたのだろう。とてもうれしいプレゼントだった。

こんな天気の際は、ライチョウが現れるはずだと思って目をこらしていたが、なかなか姿を現してくれなかった。それでも、爺ヶ岳の南峰を過ぎたところで、黒っぽいライチョウを見つけることができた。すぐ近くに雄のライチョウもいた。遠かったためきれいには見えなかった

が、それでも見られてラッキーだった。



爺ヶ岳中央峰をトラバースする

種池山荘に着くと、しっかりと出発準備をしたKTさんがいた。我々もトイレを済ませて出発準備をする。私はSちゃんの安全確保に努めるが、KTさんの確保はCさんやKSさんが務めてくださる。



種池山荘をあとに下山にかかる

雪渓を過ぎ、ガレ場を過ぎて、ホッと一息。Sちゃんは下りは絶好調。KTさんも確保のおかげで順調に下ってくる。ケルンで一休みし、そこでジャンボタクシーに下に着く時間を連絡する。

20人以上の大パーティーがいたため、少し時間がオーバーしたが、先頭は予定通りの時間に登山口に降り、タクシーに乗り込んだ。運転手さんの好意で、薬師の湯に入る時間、待機していただいた。大糸線は混んでいて座れなかったが、松本からの特急は全員座って家路につくことができた。がんばったSちゃんといろんなサポートをしていただいたみなさんに感謝しながら、新宿駅で特急を降りた。

記：網干

コースタイム

8/2 扇沢(11:50)…ケルン(13:15)…種池山
荘(16:25)

8/3 種池山荘(6:30)…爺ヶ岳南峰(7:10-

7:25)…冷池山荘(9:00-9:20)…鹿島槍
ヶ岳(12:10-12:30)…冷池山荘(14:10)

8/4 冷池山荘(5:35)…種池山荘(8:10-
8:30)…扇沢(11:30)

※参加者不足のため鼻曲山、櫛形山を中止としました。

※子どもの参加者不在のため、自然と親しむ子ども山登り教室(御前山)が中止となりました。

※悪天候のため御嶽山が中止となりました。

講習会報告

★岩登り技術講習会(日和田山)(6月21日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)
会員外(健常者1名)

当初の予定は、22日の日曜日だったが、天気予報が良くなかったので、1日早い21日の土曜日に実施した。来月の西穂から奥穂の縦走に参加するメンバーの岩登り技術向上が一番の目的だったので、他の予定を調整して参加した方もいた。



男岩南面のフェースを登るTさん

いつもは満員の岩場も、今日は土曜日のせいか比較的すいている。今回は、最初から男岩南面のフェースを使って、ここで徹底的に岩になれてもらうことにする。

午前中は、フェースを登り、午後からは凹角

を登って、フェースをクライムダウンする。クライムダウンも2回目になると、少し慣れてきたようだ。西穂から奥穂の縦走のためには、もう少し慣れて欲しいところだ。

今日は、キビタキが近くで、最初から最後までさえずっていた。また、懸垂下降した人の足に国蝶のオオムラサキが止まっていたが、下に降り立ったとたんに飛んでしまった。しかし、舞っている状態でもあの美しい色がよく分かった。形容しがたいほどの美しさに見とれてしまった。



岩場の前で

今回土浦から来た初参加のHさんは、かなり岩に慣れたようで、スムーズに登っていた。Tさんも初チャレンジだった。登りにくい柔らかい軽登山靴だったが、がんばり、最後にザックを背負って登る経験もできた。できれば、もう1回、練習をしたいところだ。 記：網干

個人山行報告

★大岳山(6月15日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)

今日は個人山行で大岳山へいきました。御嶽駅は小さな駅なのでホームはハイカーがあふれんばかり。ひとつしかない階段に殺到している。

仲間の顔を確認し、挨拶もそこそこにバス停に並ぶ。日差しが暑くて、今日は水分が奪われると思い、必要な水を購入する。

暑い日差しの中、臨時バスに乗り込む。ケーブルカーもまた臨時がでたようだ。とにかくすごい人である。ケーブルカーで御嶽駅に着いたらやっと落ち着いた感じで、ハイカーもばらけていった。そこでCさんから「声だしまししょう」といって、挨拶がはじまる。みんな今日も元気だ。ホリデー快速の電車の中でIさんが皆さんに大岳山の地図を配っていただいたのでそれを手にして、いざ出発。



ここが山の中なの？って思うくらい、お店が立ち並び、高尾山のような。御嶽神社ではお囃子に合わせてきつねの舞が行われていた。そのお囃子を聞きながら、緑豊かな森へと進む。舗装道路から砂利道、どんどん森の中へ進むと温度が下がっていくのがわかる。天狗の岩には人

がたくさん。鎖がついており、それを登る人が列を作っている。それを右手にみて私たちは七代の滝をみに、急な鉄の階段をどんどん下る。水の音がだんだん大きくなってきて、ゴール。七代の滝がお目見え。マイナスイオンをつかの間浴びて、また同じ道(急な階段)を登る。

Yさんはそれを登るのは想定外だったようで、がっかりした様子。スイッチオン、頑張っ

て～
ロックガーデンに入ると渓谷を横切ったり、そばを歩いたり、水の音は癒される。そこでCさんが鳥を発見。鳴いているがなんの鳥かわからない。Aさんに何度も聞いても覚えられない。困ったものです。

緑も水の近くでは潤って見える。ここで早いお昼ごはんでもいいな～なんて思ってしまう。綾広の滝を終え、ロックガーデンが終わった分岐の東屋でYさんとKさんがここまでで充分とおっしゃるので、Iさんがロックガーデンを戻らない帰り道を説明して、Yさん、Kさんに見送られ出発。

道はとてもいい道でトレランの人となんとか挨拶をかわす。それにしても緑がきれい。ここから岩場。滑落注意と書いてある看板を発見。注意して進む。鎖場もあって、とにかくよく整備されていると感じた。やや遅くなってしまい、前と後ろの距離が長くなってしまった。それでもIさんやYさんが戻ってきてくれて、大丈夫かと声をかけてくれる。

大岳山まで残すところ標高100mのところ急になってくる。ガリガリの岩が続いており、標高を稼がしてくれる。樹林があけて、窓が見えたところで大岳山山頂到着。13時30分になっていたのとにかくお腹がすいていたので山頂を味わうよりまずは昼食。昼食はすばやく、計画より1時間遅れていたもので早々に下

山にとりかかる。



下山ではIさんがKさんをサポート。計画より早い時間でケーブルカーへ。途中で別れたYさんとKさんとも無事に合流することができ、

はじめから終わりまで心配してくれた、Aさんに下山報告して登山終了。予定通りのケーブルカーに乗って、予定通りのホリデー快速にも乗れたことが一番うれしくほっとしました。

今回の山行ではいろんな場面でみなさんに助け、無事に終えることができました。この場所を借りて皆さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。 記：柏樹

コースタイム

ロープウェイ御嶽山駅 10:00 発) …ロックガーデン終了 (11:30-11:40) …大岳山 (13:30-13:50) …御嶽山駅 (16:05)

各種連絡事項

☆第14回視覚障害者全国交流登山大会鋭意準備中

第14回視覚障害者全国交流登山大会がいよいよ間近に迫ってきました。

各団体からの参加人数は、総勢267人となりました。他に、福島県山岳連盟(石城山岳会、猪苗代山岳会、あだたら山の会など)、杉妻芸能協会など、協力していただける方々を合計すると300人を超えます。一昨年、秋田駒ヶ岳などに一緒に登山をした石巻の人たちも4人が参加します。また、赤城自然園から2名の方に参加していただくことになり、赤城自然園への招待券を参加者全員にプレゼントしていただくことになりました。(株)モンベルからも記念品を寄付していただくことになり、富士ゼ

ロックス端数倶楽部と富士ゼロックス(株)からはそれぞれ助成金10万円ずついただきました。

現在、参加者名簿作り、登山の班編制、国立磐梯青少年交流の家への利用申し込み、部屋割り、バスの手配、葉作成、予算編成などを終え、実行委員総出で最終準備にかかっています。

参加していただける会員のみなさまには、登山の班長や他の団体のサポート、イベントや開会式、懇親会、部屋案内や連絡など様々な作業のお手伝いをお願いしていますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

★1%支援制度の選択届出結果について

今年も「自然と親しむ子ども山登り教室」にかかるスタッフの交通費などを申請しましたが、今年は22,576円(15件)の選択届けがありました。実施が危ぶまれた今回の「自然と親しむ子ども山登り教室」ですが、石老山、伊豆ヶ岳、烏帽子ヶ岳、鹿島槍ヶ岳で子どもの参

加があり、中止となった御前山以外、実施することができました。

届け出をしていただいたみなさま、スタッフとして協力していただいたみなさまに深く感謝申し上げます。

会員情報

◎再入会員のお知らせ

6月以降、下記の方が再入会されましたので、よろしくお願いします。(敬称略)

正会員

1名

編集後記

・理事長のつばやき

交流登山が間近に迫ってきました。ヒマラヤ登山では、よく日本を出発できれば8割は成功したようなものだと言われていました。それは、「行きたいね」と計画しても、8割が人集めや計画、準備の段階で挫折して、日本を出発するところまでいかないためです。

今回の交流登山は、途中で「できません」と投げ出すことなどできず、何が何でも実施しなければならないため、実施にこぎ着けて当たり

前とも言えますが、それでも5割位は成功したといっても良いのではないかと思います。

ただ、準備も非常に大変ですが、とにかく当日の登山を安全に実施することが最大の課題であり、さらに参加したみなさまに少しでも「楽しかった」といってもらえるように運営することが大切と思います。

とにかく、もう一踏ん張り。みんなで力を合わせてがんばりましょう！

・次回発行予定は、12月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

